



昆虫学者アンリ・ファールブル（1823～1915）が描いた「ひとよたけ」（『きのこ絵』パイインターナショナル刊より）



ごあいさつ



明野子ども美術館は〈自然〉と〈物語り〉の二つを活動の柱として、誰でも参加できる手仕事講座を年間10種類30回ほど開催しています。どの手仕事講座の講師も、一流であるばかりでなく、子どもたちの思いを大切にうけとめ成長に力をかして下さる方におねがいしています。

〈自然〉は周囲の森を中心に、〈物語り〉は宮沢賢治のお話を題材に物語りを五感であじわって、それぞれを関連させながら行い、その成果をもとに秋の賢治祭（2019年9月15日 第21回）を作っていきます。

ことしの「明野子ども美術館の賢治祭」では宮沢賢治作 童話〈**ありときのこ**〉を上演します。（『新校本宮沢賢治全集 年譜』によれば）1911～13年 賢治16～18歳 盛岡中学校3～5年の時、発火演習・夜営を体験していて、1921年、10年後に創られた（と推定される）このお話につながっているように思われます。そして、1933年 37歳で亡くなる年の3月、「朝に就いての童話的構図」という題名で童話〈**ありときのこ**〉を雑誌に発表しています。

とても短く楽しいお話ですが、年譜から見ると思春期から亡くなるまで、賢治の一生を貫いているとも考えられる作品です。童話〈**ありときのこ**〉を糸口として、現代の視点から賢治作品をたのしんでいきます。童話〈**ありときのこ**〉原作を掲載しましたので、ぜひみなさまの感想をおきかせください。活動にいかしたいと思えます。

第21回目「明野子ども美術館の賢治祭」は折り返し地点に立った気持ちで、いままでの成果をふりかえることと、新しい方向を探るプログラムを計画しています。物語にちなんだお菓子やお茶を飲みながら、朗読、音楽、衣装、などをもとに気軽に思いを語りあいたいと思っています。今年もまた自然や文化をたのしむ旅にでかけましょう。

2019年4月 明野子ども美術館 代表 松崎春子

運営委員会より

昨年度も会員の皆様のカンパとご協力で充実した活動を行うことができました。今後とも明野子ども美術館の活動をご理解いただき、カンパと会員継続をお願いいたします。

〈明野子ども美術館の賢治祭〉音楽CDも好評発売中！あわせてお申込みください。2000円です。そのうち15%は東日本震災支援活動に使わせていただきます。

明野子ども美術館運営委員会一同

カンパと会費 振り込み郵便口座

ゆうちょ銀行からは 00210-4-027186アケノコドモビジュツカン

ゆうちょ銀行以外からは ゆうちょ銀行〇二九店当座0027186 アケノコドモビジュツカン